

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	聖隷放課後クラブはなえみ和合		
○保護者評価実施期間	2025年 9月 9日		2025年 9月 16日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	49名	(回答者数) 41名
○従業者評価実施期間	2025年 9月 9日		2025年 9月 16日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数) 8名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 12月 25日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されている。また、職員の意見を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげている。	法定研修、外部研修「こどもの関わりを学ぶ」や法人内放デイ事業所との事例検討会など、年間の研修計画を作成し実施している。また、伝達事項が職員全員に伝わるように職員のクラスノートを活用している。	法人内放デイ事業所との事例検討会などを継続するとともに職員の「学びたい」内容を把握し研修計画に反映する。クラスノートの継続と、職員間で業務の遂行状況の確認(週1回)を行い円滑な業務遂行ができるように努める。
2	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出をその他必要な訓練が行われている。	曜日により、利用しているこどもが異なるので、毎月、想定(時間や曜日、状況等)を変え避難訓練の実施をしている。また、ご家庭と訓練の様子を共有するためコドモン(情報共有アプリ)にて配信している。	さまざまな想定を設定した避難訓練、職員ひとりひとりが非常時に対応できる取り組みを継続していく。また、こどもたちが「自身の身を守る」ことが学べるように工夫をする。
3	活動プログラムが固定化しないよう工夫している。	こどもの「やりたいこと」を実現する活動『チャレンジタイム』を活動プログラムに追加した。	『チャレンジタイム』の継続をしていく。自由遊びや長期休みの活動についても、こどものやりたいことが実現できるようにこども達と相談をしながら活動プログラムを検討していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	通信やホームページ・SNS等を上手く活用できていない。活動概要や行事予定、体制等の情報や自己評価の結果等についてこどもや保護者に対して十分に伝えることができていない。	保護者に対して、コドモン(情報共有アプリ)を日常的に使用しているため、ホームページに掲載している体制や自己評価の案内が不十分であった。	情報発信のツールの使用方法について保護者に周知していくとともに、ホームページに新たな内容を掲載した際には、コドモン(情報共有アプリ)にて保護者にお知らせをしていく。クラスだより(週1回)の配信、長期休みの予定はコドモン(情報共有アプリ)での配信を継続していく。
2	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返り、気づいた点等の共有ができていない。	支援終了後は、送迎業務があるため、当日の支援終了後に職員全員が揃うことが困難な状況がある。	その日行われた支援の振り返り・気づきを共有するため、パート職員の終業時間前に、振り返りを行う時間を設ける。また、全員で共有できるよう「クラスノート」を活用する。
3	事業所の行事に地域住民を招待したり、放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がない。	和合せいれの里(児童発達支援センター・こども園のこども達や高齢者)との交流の機会を設けることができたが、事業所の行事に地域住民を招待したり地域の小学生以上のこどもの交流には至らなかった。	年間を通して、和合せいれの里内での交流を実施していく。また、地域での活動の機会を増やしていけるよう、長期休みには事業所外での活動を設定する。